

同志社大学

2014年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2015年 3月 19日提出

所 属	職 名	氏 名
社会学部	教授	尾嶋 史章
研 究 題 目	教育の機会と効用に関する計量的研究 －学歴と経済的不平等からみた戦後日本の教育社会	
研 究 成 果 の 概 要	<p>今年度は、以下の3点に関して研究を進めた。</p> <p>(1)教育機会の経済階層間格差 上記の問題に関して、推計親所得を用いて検討した。この結果、全体としてみれば進学機会の経済的な格差は徐々に縮小する傾向にある。特にこの傾向は高校への進学段階で顕著にみられたが、高校から大学への進学機会に関しては、その変化は小さかった。この研究成果を、国際社会学会 (ISA/RC28) において Fathers' Income and Educational Attainment; An Analysis on Trends in Educational Opportunity with the Predicted Father's Income と題して報告した。</p> <p>(2)教育の経済的効用に関するコーホート比較 教育の経済的効用に関して、コーホート比較を用いた分析を行った。ここでは「社会階層と社会移動」全国調査の各時点の調査データをプールして、コーホートごとに男性の所得関数を求めて、それをもとに高等教育の所得に及ぼす効果のコーホート間比較を行った。</p> <p>(3)現代高校生の進路と生活に関する研究 昨年度までの科学研究費による共同研究の成果をまとめて 2015 年度に出版するための準備を進めた。</p>	